

禮

春水著  
國磨画

三編

八少稿

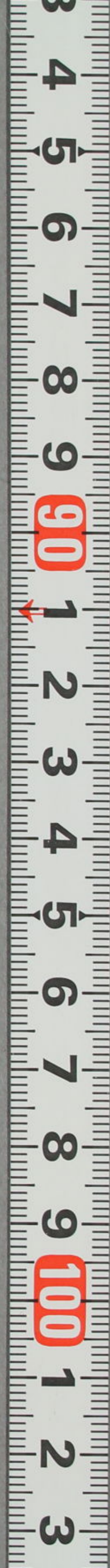
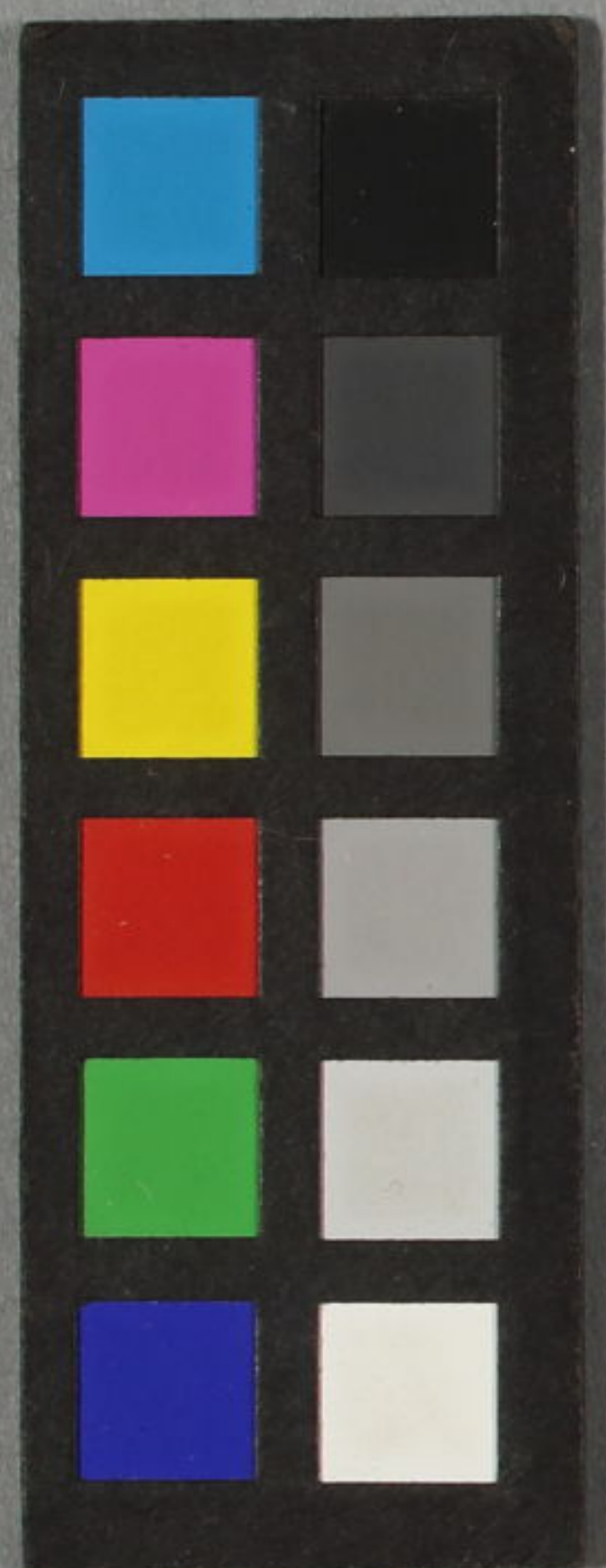
雪乃

佐野渡

甲寅  
新刻



~ 13  
3745  
3



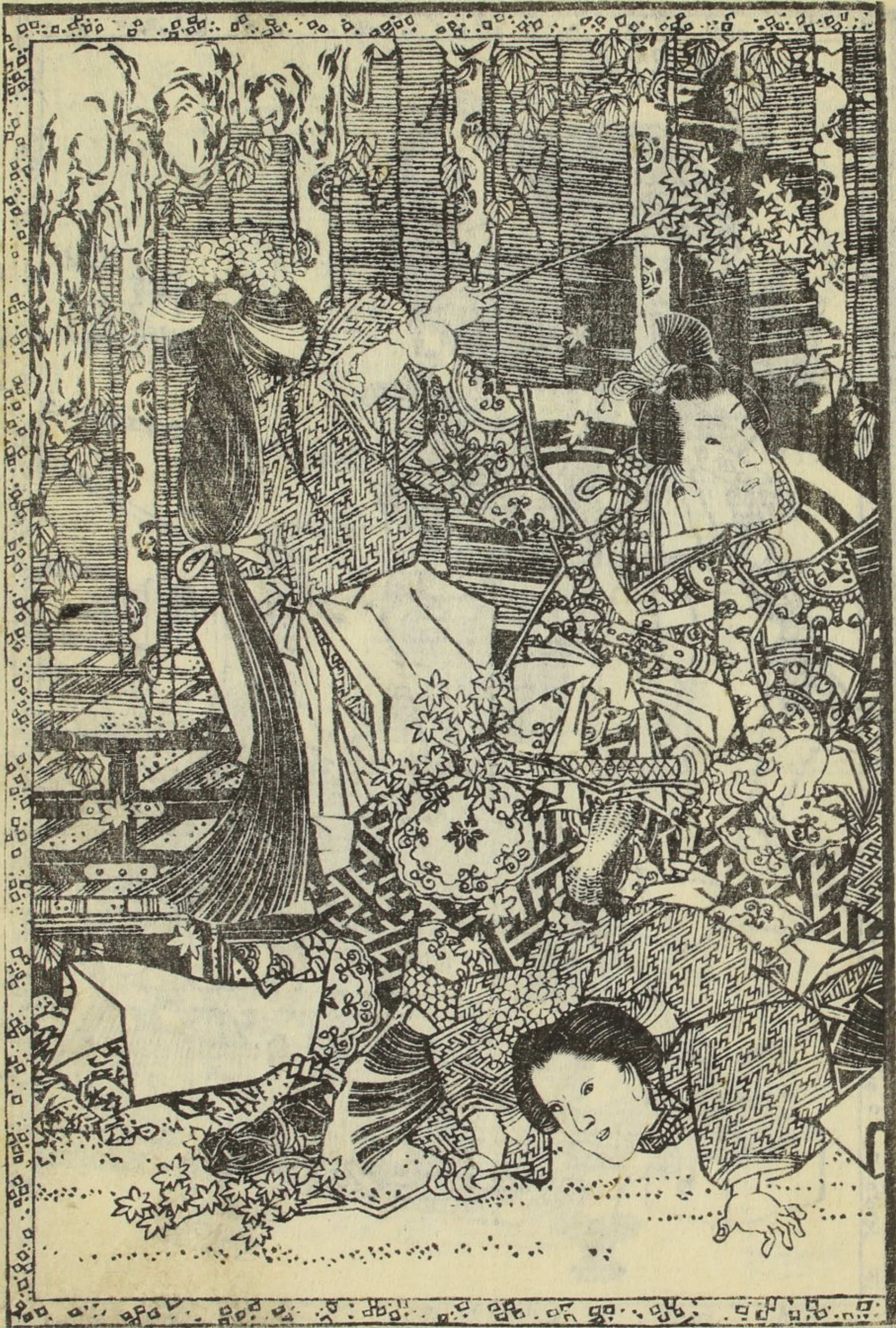


万葉集に『下野の安禰の河原の石碓まの空もときぬよ。あまのこは』又堀河  
 百首ふ『引連く。回居せんとお思ふ。春を真弓の山み入るらん』  
 二首ふ『安禰の子息真弓助と言ふ名を作せまらけり。例の  
 如空の種と云れども。素より巧める條もあく。只その心のかのむ。隨不辭  
 小葉然之枝を交う。稍三節も伸あがりか。所謂獨活の大木あり。句  
 ひも味もあま著る。作者の相もふ。之疎生れく。巳くら酢味噌とほ  
 けり。やせん。思ふ元自販元。駄物と知り。仕込を急ぎ。尚お替りの准  
 備とよ。需へ听けど。作者の骨。左に右趣向。切物なれども。此か間とを  
 言ひ。工の鯉節。一寸当坐の。か間を合し。

嘉永七甲寅歲孟春



為永春水誌る













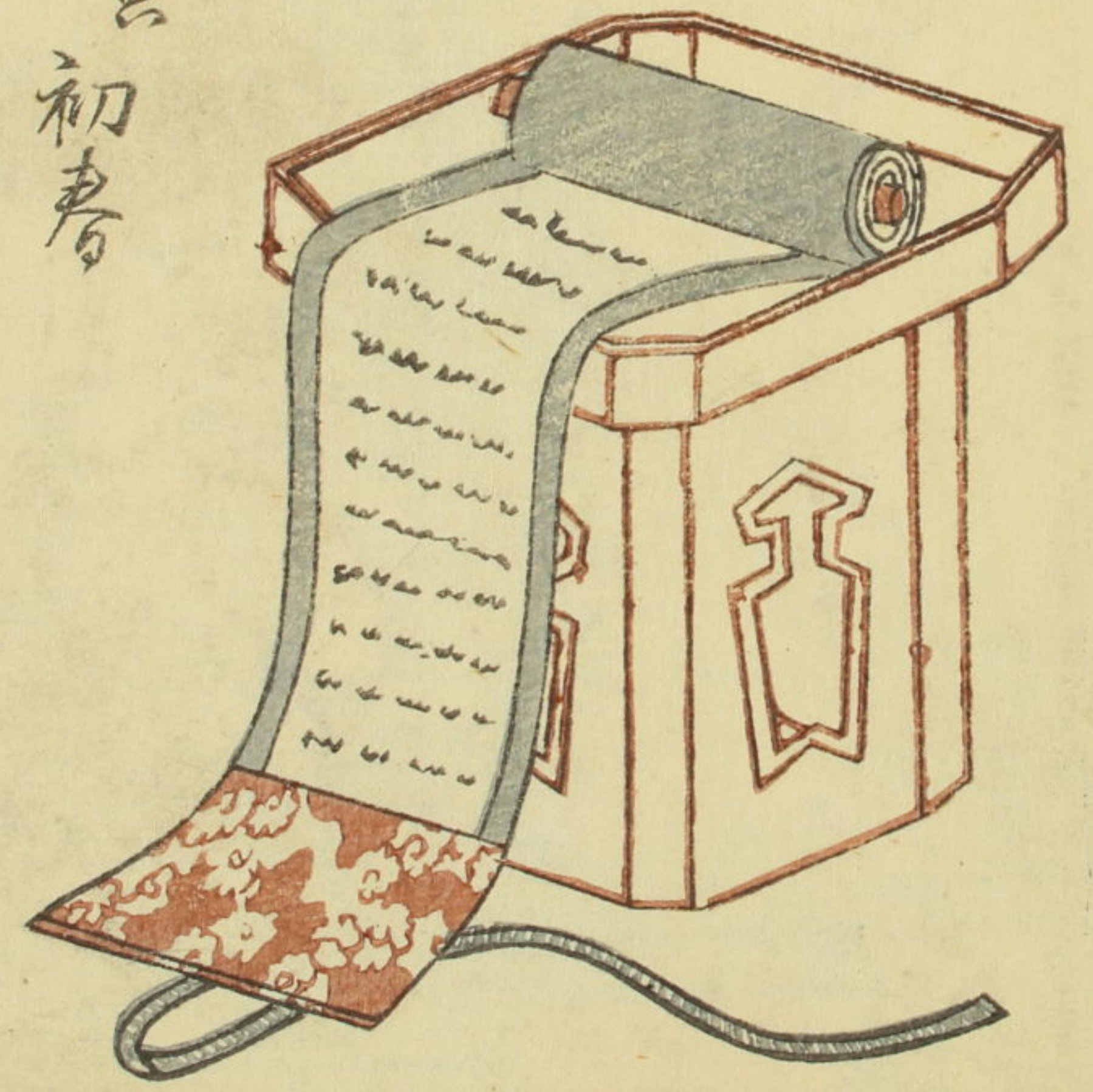








為永春水著  
歌川國麿画  
佐野渡  
雪乃  
ハツ橋  
三篇上ノ巻



甲寅  
初春  
松壽堂様

因磨画



春水作



橋蝶樓園慶画

為永春水画

三編下



佐野渡雲乃八橋  
甲寅ノ春新刻

三編上

松壽堂上梓



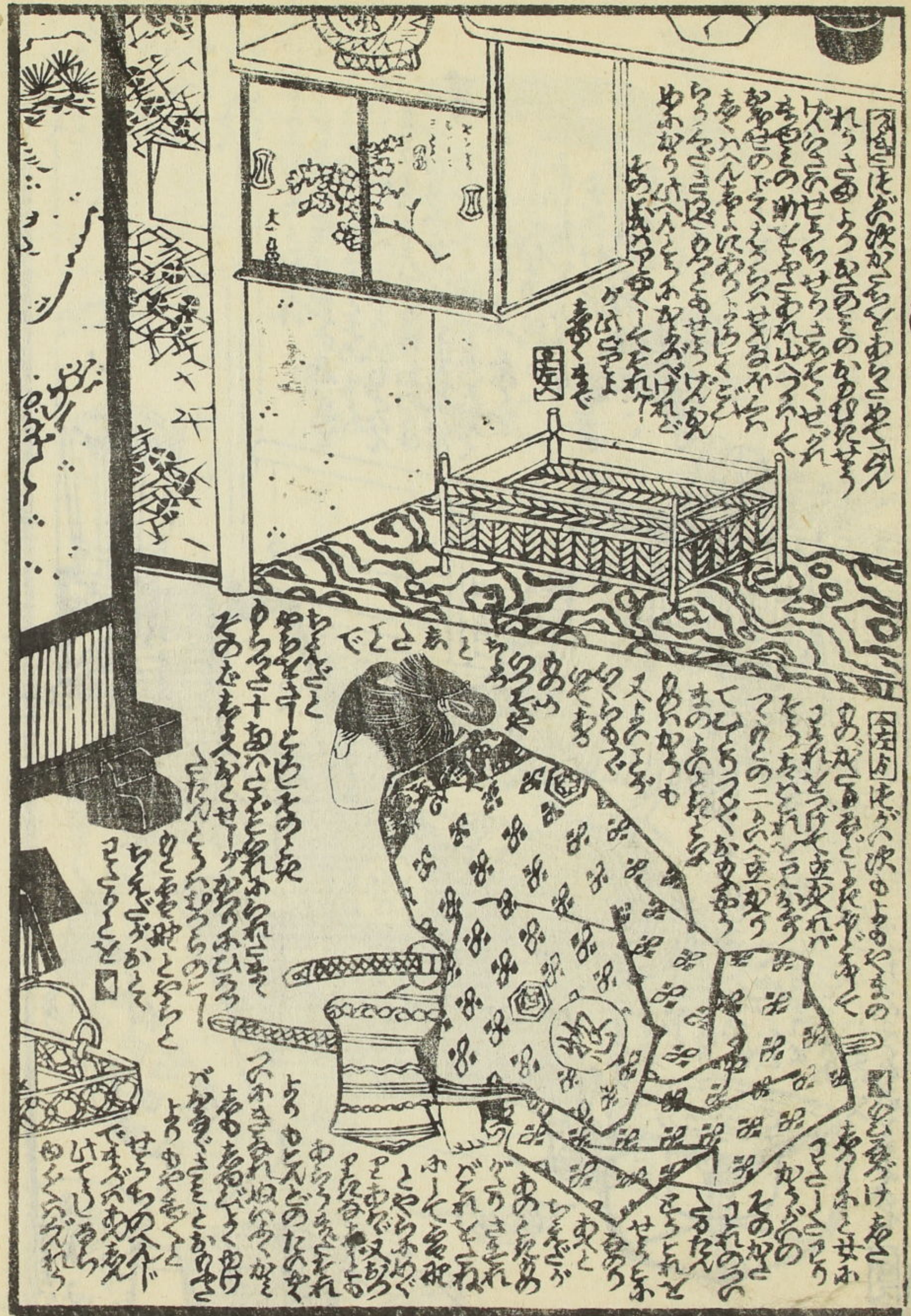


まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん

田本門人  
唐久年  
田本門人  
唐久年

まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん

まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん



まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん

まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん  
まのえん







たつとちのちのち  
わよのやいしたん  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち



愛と次の画の空  
物かろ  
出せろ  
よろく合せ



あつとちのちのち  
わよのやいしたん  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち  
のちのちのちのち







万が一の事にも  
 父の仇を  
 討つて  
 死ぬる覚悟  
 せよと  
 云ふ  
 母も  
 涙を流して  
 云ふ  
 此の仇は  
 父の仇に  
 違ふ事  
 ない  
 と云ふ  
 母は  
 泣きながら  
 云ふ  
 母の仇も  
 討つて  
 死ぬる覚悟  
 せよと  
 云ふ



母の仇も  
 討つて  
 死ぬる覚悟  
 せよと  
 云ふ

母の仇も  
 討つて  
 死ぬる覚悟  
 せよと  
 云ふ

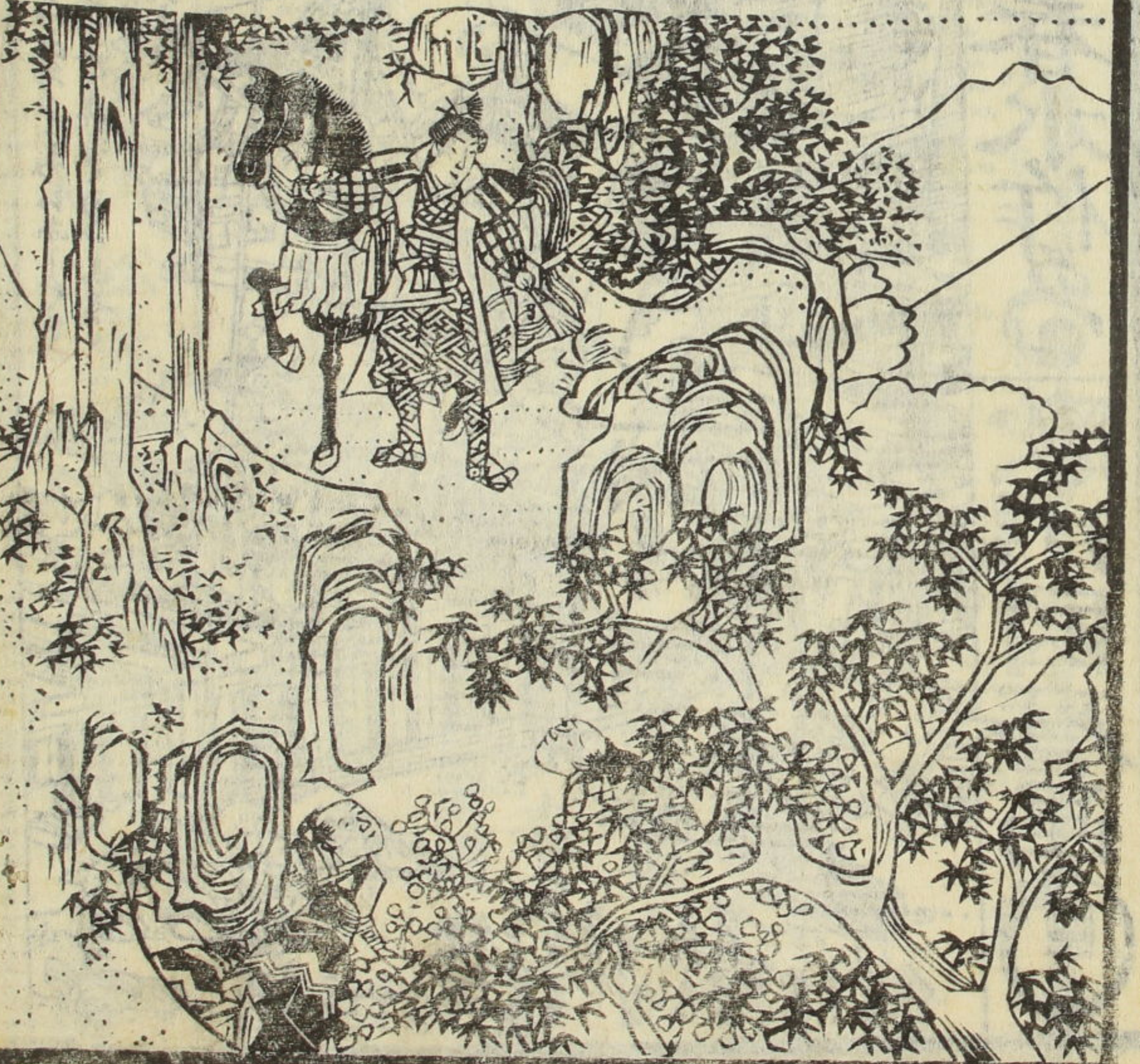


母の仇も  
 討つて  
 死ぬる覚悟  
 せよと  
 云ふ

十人...  
 十人なるのさむじとを  
 ちつれその日申すの  
 なるまをりてくまきう  
 ひみちのりてくまきう  
 つまの日のひまきう  
 ちつれその日申すの  
 なるまをりてくまきう  
 ひみちのりてくまきう  
 つまの日のひまきう  
 ちつれその日申すの  
 なるまをりてくまきう  
 ひみちのりてくまきう  
 つまの日のひまきう



左...  
 左...  
 左...  
 左...



安政七庚申孟春發行目錄

弘化大雜書万々曆 大分 全一冊

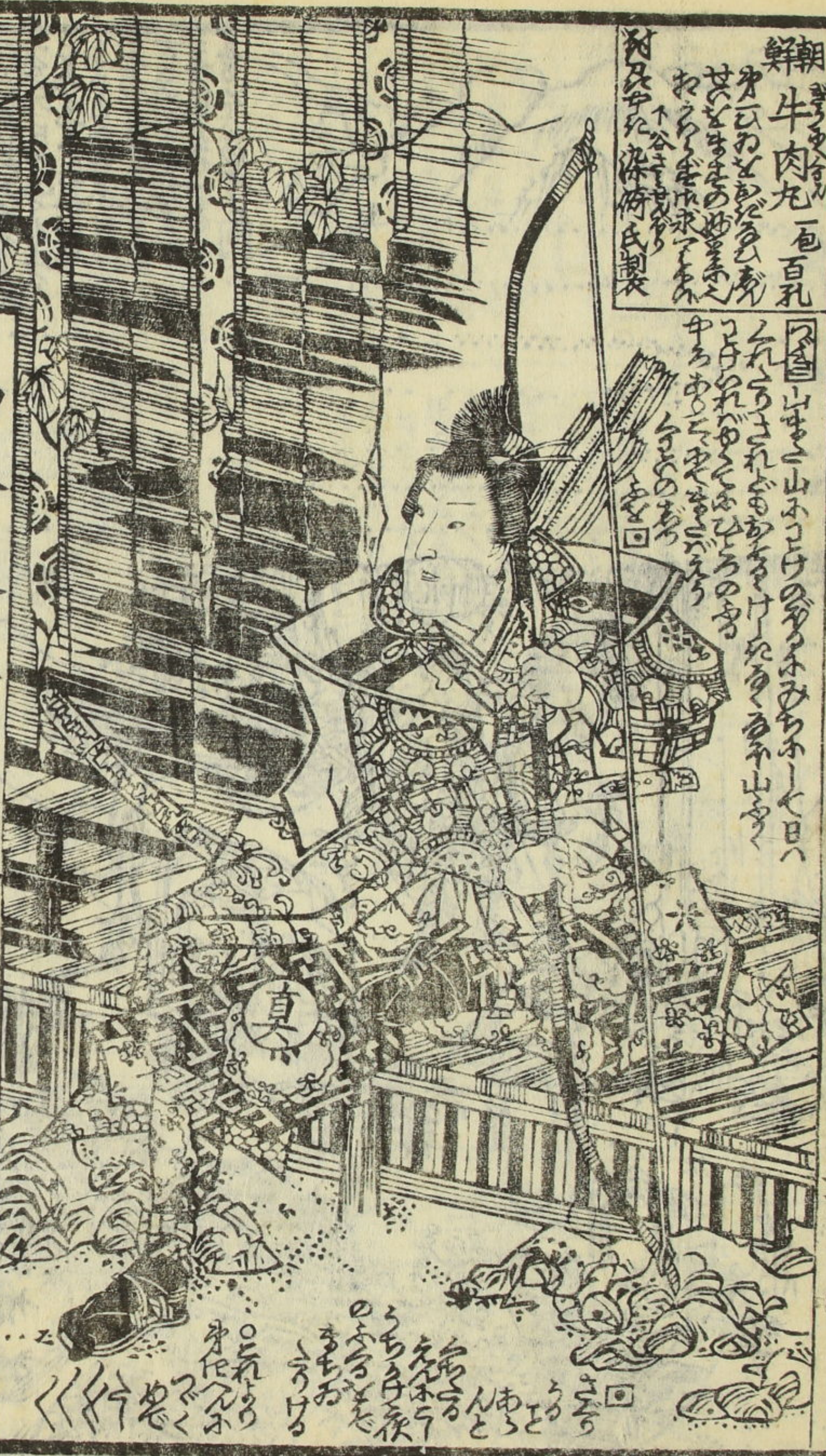
○佐野渡雪八ツ橋 八編 為永春水作  
九編 梅蝶樓國貞画

○昔語室壁太郎 六編 為永春水作  
七編 一壽齋國貞画  
八編

○愛娘出世太平記 三編 為永春水作  
四編 一曜齋國郷画

地本草紙問屋松壽堂 東都兩國吉川町  
大黒屋平吉板

為永春水作の歌川國曆画



朝鮮牛肉丸 一巻百孔  
其の味は如何なるか  
おもしろき味なり  
下谷三平氏製  
附及平氏深荷氏製

此の画は  
歌川國貞  
の作なり  
其の味は  
如何なるか  
おもしろき  
味なり  
下谷三平  
氏製  
附及平氏  
深荷氏製



